

帆ニテ馳ル船モアリ、

〔堀川後度狂歌集雜六〕船

酒積し舟は帆にさへはかるなりあるは八合あるは六合。

はりま瀉いとも静けき風の手に海を縫ゆく木綿帆の舟

春雨で敷たやうなる海面にちと恥かきし舟のむしろ帆。

〔新撰字鏡木〕榭保柱

帆柱

〔倭名類聚抄舟具十一〕帆柱 文選注云、漿即兩反保帆柱也、又云、帆檣音以長木爲之、所以掛帆也、

〔箋注倭名類聚抄舟具三〕所引文、李善及五臣注、並無所載、漿是棹屬、與帆柱絕不相蒙、按文選、王粲從

軍詩注、引埤蒼曰、帆柱曰檣、疑漿檣音近而誤、中按海賦、揭百尺、繼長綯、李善注云、百尺帆檣也、綯

今之帆網也、以長木爲之、所以掛帆也、源君、以綯義解帆檣者、誤也、

〔類聚名義抄三〕檣ホハシラ〔同六〕帆柱ホハシラ

〔伊呂波字類抄雜物〕帆柱ホハシラ 檣帆檣已上同

〔和漢船用集十一〕檣 本邦檣の木は、檜、草檣を用て造れり、今は大木希也、この故に杉を用、

〔續日本紀三十五〕寶龜九年十一月乙卯、繼人大等上奏言、中十一日五更、帆檣倒於船底、斷爲兩

段、舳艫各未知所到、

〔義經記四〕義經都落の事

判官源義經、かんどり水手に仰られけるは、風のつよきにおき中にひけよと仰られければ、ほをおろ

さんとすれ共、雨にぬれて、せみもとつまりて、さがらず、

〔太平記三〕長崎新左衛門尉意見事附阿新殿事

遙ノ澳ニ乗ウカベタル大船、順風ニ成ヌト悦テ、檣ヲ立、蓬ヲマク、

奈賀良

花紅

早騎